



## 闘春

新年明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年も能登半島地震や豪雨災害をはじめ、地球温暖化が相まった自然災害に対して多くの課題と教訓がさらに浮き彫りとなりました。

一方、世界ではウクライナや中東情勢等の戦争は収束の兆しも見られず、人の命が簡単に奪われる社会情勢に対して、私たちは改めて誰もが持つ基本的人権・平和な社会の重要性を一人ひとりが考えていかななくてはなりません。

今年2月17日でジェイアールバス関東労働組合は結成から丸5年と言う節目を迎えます。2018年に会社ぐるみで全職場において公然と行われた不当労働行為を「あったことを無かったことにできない」「健全な企業風土を取り戻し、安心して働ける職場に戻す」ことを方針として掲げて立ち上がった私たちジェイアールバス関東労働組合は、結成の原点に立ち返りながら組合員と家族の生活を守るため常に前進し続けています。

「ジェイアールバス関東不当労働行為事件」は2021年の東京都労働委員会「全部救済命令」の履行を求め、新たなステージとなる東京高等裁判所においての完全勝利を全組合員・すべての連帯する仲間と共に目指していきましょう。

職場ではコロナ禍以降の会社経営、物価上昇から取り残された低賃金、要員不足を補うための更なる効率化、不規則な勤務体系等に対して多くの不満が蔓延しています。昨年も多くの仲間が退職・転職の道を決断しましたが、安全を最優先とする公共交通を維持していくためには労働条件・職場環境・企業風土の改善が必要不可欠です。ジェイアールバス関東が社会情勢やバス業界からも取り残されている現実を踏まえ、「2025春闘」では労働者にとっての“賃金の本質”に迫り、労働三権の議論を職場から更に高め、「賃金引上げ・労働条件向上のたたかい」に挑みます。

今年は終戦から80年を迎えます。終戦の年には「労働組合法」が制定されました。労働組合の原則的な権利・真の役割を学び直して一つひとつ実践していくことを通じ、「心と身体健康」を基軸に「安全・安定輸送」「組織拡大」を引き続き目指していきましょう。

本年もよろしく申し上げます。